

月刊 ケアマネジメント

10月号



特集

ケアマネジャーの味方！
頼れるお助けマン

特別企画

地域包括の視点で行う
「尊厳を取り戻す」排泄ケア

好評連載

カナダの福祉 最新レポート
介護・保育などのケア労働は
なぜ賃金が低いのか
～現状を学術的研究から考察する～

ケアマネジャーの味方! 頼れるお助けマン 6

①ごみ屋敷問題 解決率85%超!「足立区モデル」

庁内丸ごと「おせっかい行政」で連携 粘り強く関係性構築、目指すは生活再建 7

取材協力 ▶ 志田野隆史さん ● 足立区環境部 生活環境保全課長/小野田嗣也さん ● 同 ごみ屋敷対策係長/荒井陽貴さん ● 同/長手裕子さん ● 足立区社会福祉協議会基幹地域包括支援センター 梅島・島根地域課/阿部耕平さん ● 同

②ペットの預け先 ペットに切れ目のないケアを

ペットのお世話は「待ったなし」急な対応でも頼れるサポーター 10

困ったら愛玩動物看護師に相談を ペットも飼い主も最期まで幸福に

取材協力 ▶ 増子元美さん ● わんにゃんびつ相談室

保険外サービスで「くらし全般」ケア 高齢者のペットケアの必要性を実感

取材協力 ▶ 柳本文貴さん ● NPO法人 グレースケア機構 代表/藤原のかさん ● 同 ペットケア事業部 準備室 登録ヘルパー

③移動・買い物困難 スーパーをまるごと、ご自宅へ

移動が困難な人に届ける「見て・触って・その場で買える」楽しさ 14

取材協力 ▶ 坂本直巳さん ● 一般社団法人水郷介護支援パートナー 水郷エスコートグループ 代表理事

④消費者被害 悪質商法から守る地域の目

「ケアマネジャーの消費者トラブルへの対応」一業務でなくても社会的使命である 16

執筆 ▶ 山田滋 ● 株式会社安全な介護 代表

特集

特別企画

地域包括の視点で行う「尊厳を取り戻す」排泄ケア 23

執筆 ▶ 榎原千秋 ● うんこ文化センターおまかせうんちッチ 代表

連載

読みもの充実 情報ページ

視点

2,500万件の「電話相談」事例から考える
円滑な介護のためのヒント 45

執筆 ▶ 大井美深 ● ティーベック株式会社 経営企画部 係長

うらわか介護 20

岡崎杏里 ● ライター/エッセイスト

「CADL」がケアマネジメントを変える! 28

高室しげゆき ● ケアタウン総合研究所 代表

4つの視点から考える 幸せのためのヒント 30

小笠原綾子 ● ライター/編集者

F-SOAIIPを記録のスタンダードに 33

宮崎和代 ● 一般社団法人埼玉県ケアマネジャー協会/
島村祐希 ● 埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科社会福祉学専攻
嵐末憲子 ● 埼玉県立大学 准教授/小嶋章吾 ● 国際医療福祉大学大学院 特任教授

障害と「私の人生」 38

教えて 猪川先生! 知っておくときっと役立つ薬の話 42

猪川和朗 ● 広島大学大学院臨床薬物治療学 准教授

カナダの福祉 最新レポート 50

二木泉 ● 介護福祉士

医師との上手なつき合い方 54

嵯峨崎勝蓮 ● 日本医療コーディネーター協会 相談役

性的マイノリティの老いを考える 56

永易至文 ● NPO法人パープル・ハンズ 事務局長

ソーシャルワーカー道まっしぐら 58

宗利勝之 ● 合同会社地域生活支援ムネマル ムネマル相談支援センター 所長

花のある風景 2

ともにアート 4

うちの子じまん 19

かんたん介護食レシピ 22

今月のよみもの 60

ニュースのツボ 61

インフォメーション 62

読者アンケート 63

表紙イラスト/今井修司 本文イラスト/小関俊一

保険外サービスで「暮らし全般」ケア 高齢者のペットケアの必要性を実感

「制度」より「生活」を見るケアを

東京都三鷹市のNPO法人 グレースケア機構は、2008年に保険外サービスの提供から事業をスタートした。いままでは介護保険サービスも含めて展開し、高齢者と障害者のケアサービス（訪問介護など）や、まちづくり活動など、幅広く事業を行っている。モットーは、「制度より生活を見る」だ。

「その方が望む暮らしの実現をサポートする、『生活全体』のケアが理想です。制度ではなく生活ありきで考えると保険内でできることは限られていて、そのほかの資源と合わせて組み立てるとい考え方になります」と、同法人の柳本文貴代表。

2019年から始まったペットケア事業（保険外サービス）も、この考え方から始まった。担当の藤原るかさんは、訪問介護歴32年のベテラン。介護保険開始前からの変遷を経験し、「生活援助の時間短縮などで、利用者さんもヘルパーも窮屈な状況です。ペットのいる高齢者の支援に入ると、ペットケアの必要性を感じるものの、保険内だとそれができない。そこで柳本さんに相談すると、保険外サービスでやってみたらと快諾してくれました」（藤原さん）。ペットケア事業創設のきっかけは、実際に感じた課題からだ。

高齢化、認知症、ペトロス…… ペットケアの潜在ニーズが明るみに

グレースケア機構のペットケア事業は、本格稼働に向けた「準備室」の段階。それでも毎月6、7件以上の依頼がある。雨の日だけの犬の散歩や、家族の出張の間に親の介護とペットのケア、動物病院への通院付き添いなど、突発的な依頼が多いという。利用料は1時間3,520円（税込）だ。

「90歳代の利用者さんと一緒に散歩するときはゆっくり歩くワンちゃんが、私と一緒に歩いているときは、最初から最後まで走ります。いつもは飼い主さんを気遣っているのでしょうかね。飼い主さんとの絆を感じます。飼い主さんにとっても、ペットの存在で生活に張りができます」と、藤原さん。

一方、同法人がペットケア事業を始めて見えてきたのは、飼い主の認知症による「意図せず、望まない虐待」や行き場のないペットの存在、高齢者のペトロスなどの課題だ。

「亀を飼っている利用者さんは、認知症は進んでいます

取材協力 ▶

柳本 文貴さん（右）

NPO法人 グレースケア機構 代表 介護福祉士・社会福祉士・保育士

藤原 るかさん（左）

NPO法人 グレースケア機構 ペットケア事業部 準備室 登録ヘルパー



が、ペットのお世話をしたいという気持ちはあるので、餌をあげすぎてしまう。いつも水槽に餌が浮いている状態で、衛生状態も良くなって、餌を毎回すくって、あげすぎないように小分けにしていました。ブラッシングの仕方が分からなくなって、ワンちゃんの毛がもじゃもじゃになっていた方も。また、そばにワンちゃんがいるのに、認知症でその存在がわからなくなって、犬がいないと探しに外に出ては戻れなくなることを繰り返す利用者さんもいらっしゃいました。認知症になっても、ペットへの愛情はあるのですよね。結局、飼い主さんの施設入所でワンちゃんは置き去りになってしまいました。こうなる前に、ペットの居場所を確保しておくことが大切だと思います」。藤原さんは、認知症の高齢者の増加によりこのようなケースが増えることを危惧している。

また、高齢者のペトロスも深刻だ。「ひとり暮らしの高齢者の方にとって、ペットは心の拠り所。ある利用者さんは飼っていた猫が亡くなったあと2日間、ずっと抱っこしたまま動かなくなってしまいました。猫ちゃんが浮かばれないからと利用者さんを説得して近くのペット霊園で一緒に荼毘に付しましたが、この方の落ち込みは深刻でした。その後、私たちがケアで訪問するたびに一緒に猫の思い出話をすると、少しずつ気が紛れていきました」（柳本さん）。

このような状況からグレースケア機構では今後、ペットケア事業を本格稼働していくという。保険外サービスは利用者の経済状況にもよるが、希望する利用者のためにサービスが拡大していくことを願う。